

みの～れは“ステキ”なことができる場所

澄み渡った秋空の下でトンボが舞い、コスモスがきれいですね・今年のように、猛暑を乗り越えた体は思った以上に疲れているそうです。高い空に流れる雲をのんびり眺めるのもいいですね。みの～れ周辺は10月20日・21日に開催されるヨーグルトサミットの白い旗が目印で盛りだくさんのイベントが皆さんをお待ちしています。今回は四季文化館企画実行委員で小美玉市羽鳥地区にお住まいの瀧澤比佐乃さんを取材します。



四季文化館企画実行委員
たきざわ ひさの
瀧澤 比佐乃さん

「小美玉の良さ・素晴らしさを、色々な形で伝えていきたい」と笑顔で話してくれた瀧澤さん

みの～れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ No.136

前号で紹介した方のお名前に誤記がありました。
お詫びして訂正いたします。
(誤)見澤淑江 → (正)見澤淑恵

いろいろな縁が繋がって
みの～れに来ています
瀧澤さんは「東京の大学で文学部の演劇科で勉強をしていました。実際には演じる方ではなく演劇を観て評価するという立場でした。中でも古いものが好きだったこともあり、日本の伝統芸能を学んでいました。また、茶道も大学生の時から始めて内弟子として毎日毎日茶室のお掃除や準備をしに通っていました」と懐かしそうに話してくれました。

また、「お茶の世界は一瞬、一瞬が素晴らしい。塗物・焼き物・掛物の世界(掛け軸)・お花・お茶の歴史やお茶室の見学に何度も京都に行かせていただきました。普段は入れないようなお茶室も研究をされている教授がいると入れていただくことができました。お茶だったり、日本の文化を学ぶために能狂言、歌舞伎を毎月1回は観に行っていました。能、狂言、歌舞伎の世界がお茶の世界に入っている・その逆もありました。すべてが教養ですね。いずれ、この楽しさを

誰かに伝えたいという気持ちはあるのですが、これから先、どこに行きつくのかは、まだ解りません」と瀧澤さん。

みの～れとの出会いは、「きつかけは、皆さんに掛け軸(書)をお見せしたくて、お茶会をしながら始めました。床の間に掛け軸をかけて、お茶のしつらえをして生徒さんをお迎えています。みの～れには素敵な和室があって、そこから見える中庭は四季折々に花や木々の紅葉を楽しむことができるんですよ。」と話してくれました。

このお茶会でみの～れを利用していたのが縁で、今年の4月から企画実行委員でも活躍している瀧澤さんは、「小美玉市が産んだエンターテイメント集団 OMT-JAPANの公演を9月に子どもと観ました。エンターテイメントはテレビなど、違う世界の人ができるもの、という思いがあった中、その垣根を OMT がなくしてくれたような感じがしました。地産地消のもので郷土愛を育み、それが自己肯定につながったりするようで、とてもおもしろ

い取り組みだなと。学校アクティビティ事業では公立の幼稚園や小学校で行われた琴や琵琶の演奏会を聴きに行ったこともあり、演奏者との距離がとても近くて音楽の振動が伝わってくる・他のところにはない体験を小美玉の子ども達はできてるなんて幸せだと思いませんか?この体験が、生きていく中できつと何かの自信に繋がりますよね」と笑顔で話してくれました。

今後について、「小美玉に誇りを持って、こんなに素敵な風土の中で文化を紹介したり、創っていただけるいいなと思います。高いお金を払ったり、遠くまで行かなくても小美玉っていいところだなと感じています。いろいろご縁があってみの～れに関わらせて幸せなんだと思います」と瀧澤さん。この日瀧澤さんは実行委員の皆さんと歌舞伎の視察に行かれたそうです。何か新しいことがみの～れで始まる日が来るかもしれませんね。楽しみにしています。